特許庁「知財と企業価値」報告書の検証と実務への示唆

報告書の主な知見と分析手法上の課題



ESG欄での知財開示と企業価値の「条件付き関係」

開示企業では特許ストック1単位あたり企業価値の上昇傾向が見られる。



推定式の不備と市場要因の混同

単独項の欠落や2023年の制度改正等の外部要因が分離できていない。



巨大企業依存と主要企業の標本漏れ

IFRS適用企業が除外され、極少数の巨大企業に結果が依存している。



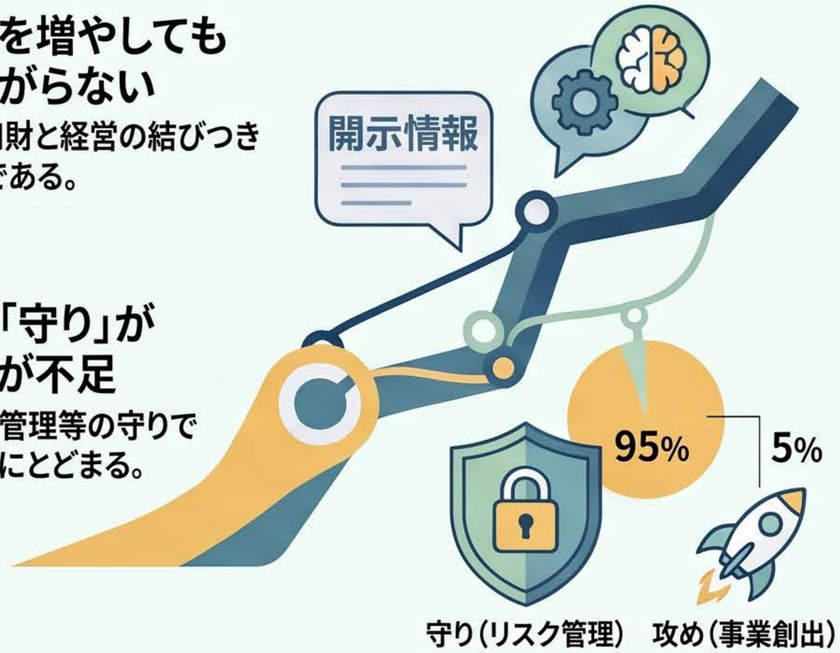
企業実務（経営・知財・IR）への示唆

単に開示文言を増やしても企業価値は上がらない

開示の量ではなく知財と経営の結びつきを語れるかが本質である。

現状の開示は「守り」が中心で「攻め」が不足

記載の多くはリスク管理等の守りであり事業創出は5%にとどまる。



部門横断で知財と事業価値の対応関係を可視化

知財・経営企画・IRが連携し社内で知財価値を説明できる体制が必要。



Gemini Notebook